

日時 令和8年1月27日(火)
午後2時から4時15分まで
場所 会議室

1 開会

2 校長あいさつ

生徒の活躍・特色ある取組

- ・税の作文入賞、ウーブンシティ取材、美術部の黒板アート展示など地域連携の成果が多数ある。
- ・保育系列の親子教室、キャリアデー、図書館とのコラボ企画、探究コレクションでの商品販売など、体験的・探究的な学びが活発。
- ・校長通信を継続的にホームページで公開している。

系列再編の背景と方針

- ・地域の生徒数減少に伴い、本校の定員が80名に減少した。
→ 教員数も4~6名減となる見込みである。
- ・教員配置の維持が困難になるため、これに伴い5系列を3系列へ再編する。

人文国際+自然科学 → リベラルアーツ系列

ビジネス系列 → 現行維持

保育+福祉介護 → こども・福祉系列

令和8年度の中学3年生向け学校案内から新系列を周知する。

学校経営計画書の改訂方針

- ・学力の三要素に基づき、教職員が「育てたい資質・能力」を検討し反映させる。
- ・アドミッションポリシーは、裾野市との探究的学びを軸に「求める生徒像」を示す。
- ・スクールポリシーは、育てたい資質能力と整合性を持たせて再構成する。
- ・各教科・分掌が「自分事」として計画と授業・行事を結びつける運用を目指す。

学校経営計画書の質疑

- ・アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・グラディエーションポリシーの一貫性不足、系列の強みが見えない、グラディエーションポリシーが抽象的である。
- ・校長は意見を参考として、今後の改善を検討すると回答した。
- ・山本委員・小田委員は、
 - ・系列の専門性を活かした到達目標
 - ・個別最適化
 - ・課題設定力の重視
 - ・地域貢献を核にした差別化 を求めた。

3 議事

(1) 教育活動年度末報告について

総務図書課

PTA参加率は目標30%に届かなかった(総会23.6%、緑化5.8%、クロカン21.2%)。

生徒数減少に伴い、PTA委員会の縮小・運営方法の見直しを検討中である。

図書貸出数は目標 5 冊に対し 1.8 冊。朝読書やクラス文庫・自由文庫などの取り組みは継続する。

教務・研修課

生徒アンケートでは「授業がわかりやすい」「力がついた」と肯定的評価が多かった。

ただし 3 年生の遅刻・欠席が増加。学年末に向けて指導を強化する。

教員減・クラス減に対応するため、教育課程の見直しを検討中である。

生徒課

基本的生活習慣（服装・挨拶・集会態度）は概ね改善した。

生徒会・部活動・ボランティア活動は活発である。文化祭では生徒が自発的に外部ボランティアを企画した。

交通事故は昨年 4 件→今年 2 件に減少した。警察・市と連携したマナーアップ活動を実施した。

ネット依存対策、SNS マナー講座、面接指導などを継続する。

進路課

就職第 1 志望合格率：89%（前年 95～96%）

同一企業に複数受験があった。

進学第 1 志望合格率：97% と高水準であった。

1・2 年生の進路意識は向上（1 年生の 87.5%が進学か就職かを明確化した）。

公務員志望者向けに外部講師を導入した。

放課後自習室も新設し、質問しやすい環境を整備した。

保健・相談課

保健だよりは年間 12 回発行した。がん教育なども実施した。

施設点検に起因する事故はゼロであった。

朝食摂取率は前年並みだが、国の目標（100%）には届かず、改善が必要である。

歯科受診率が低く、三者面談で受診を促す方針である。

校内美化は概ね良好である。

スクールカウンセラーによる相談を 56.2 時間、通級指導 29～31 時間を実施した。

アセスメント結果を教員研修で共有し、支援に活用した。

総合学科キャリア教育推進室

1 年生：地域探究基礎

外部プログラム（エンジン）を活用し、ITS・自衛隊と連携した。

発表会では「本校の発表が一番良かった」との審査員の評価があった。

75%以上の生徒が「地域の魅力・課題を発見」「静岡県に愛着」と回答した。

2 年生：地域探究実践

裾野市役所と連携し、地域課題の発見・提案を実施した。

75%以上の生徒が肯定的に評価した。

3 年生：未来探究・自己探究

「20 年後の未来」をテーマに自己の生き方を深く考える活動を行った。

75%以上が「自己理解が深まった」「他者との対話で思考が変容」と回答した。
面接練習では、探究活動を「一番印象に残った授業」として挙げる生徒が多かった。

3 議事

(1) 裾野高校「教育活動 年度末報告」要約

統廃合に関する生徒の意見

- ・生徒への正式アンケートは実施していないが、PTA 総会で説明し、校長通信の意見欄に投稿があった。
- ・2年生の市役所ゼミでは「裾野高校の未来」をテーマに探究するグループがあり、生徒自身が議論した。

地域防災訓練参加率（4%）への問題提起

小田委員：目標設定が現実的か？

情報が家庭に届かない構造的問題もある

「本当に2割を達成したいと思っているのか」と疑問である。

校長：高校生には地域で役割を果たしてほしい。

ただし、学校だけで解決できる問題ではない。

放課後自習室・学力保障の課題

利用者は定期テスト前のみ増加、普段は少数である。

小田委員：

- ・基礎学力の欠落を目の当たりにした経験を共有した。
- ・PTA や地域の力を借りた支援の可能性を提案した。

校長：

- ・学習用アプリ等の導入は費用負担が課題である。
- ・地域の人材活用（学習支援ボランティア）については、今後も意見を伺いたい。

地域との接続（自治会・民生委員との連携）

小田委員：

全生徒が自治会長・民生委員へ挨拶に行く取り組みをかつて決定した。

このような取組は「地域に知り合いが増えることが遅刻率・中退率にも影響する」と述べた。

会長・PTA 会長：

- ・「4月に再度具体案を議論し、実施へ向けて動くべき」との意見を述べた。

PTA 活動（緑化作業・クロカン）の参加率低下

- ・今年から募集方法を変更したため、通知が遅れたことが原因である。
- ・地域住民への参加呼びかけ（自治会・広報すその等）をした方が良いのではないかとの提案がなされた。

健康診断の再検査率の低さ（歯科 12%、眼科 4%、耳鼻科 7%）

- ・養護教諭が再三促しても受診しない生徒が多い。

小田委員：

受診理由の把握が必要と指摘した。

会長・山本委員・志田委員：

視力・聴力は免許取得にも影響する。

リスクをもっと伝えるべきと提案がなされた。

学校と地域の協働の必要性

小田委員：

- ・生徒指導や生活習慣の改善は「生き方の問題」であり、地域との関わりが不可欠である。
- ・学校全体と地域との協働を行うべきとの提案がなされた。

校長：

- ・すぐに全校実施することは難しいが、小規模から始めて広げる方法もあると回答した。

(2)・(3) 自己評価・関係者評価

自己評価（学校自己評価シート）の補足説明

大石副校長より、事前に郵送した自己評価資料のうち、会議で触れられていなかった項目について補足があった。

・商業検定の結果

1月25日に実施、50名が受験し、2級に8名、3級に22名が合格した。

・教職員の働き方（ワークライフバランス）

午後8時完全退勤：90%以上が遵守している。

時間外勤務：月平均30時間以下が目標であるが、実績33.5時間であった。

年休取得：目標13日以上であるが、実績14日であった。

事務部門（コの項目）

・特段の追加説明なし。

関係者評価（学校運営協議会による評価）

・評議員へ事前に資料を送付した。

会長のまとめ

この会議は「学校をより良くするための場」であり、委員の意見と学校側の立場をすり合わせながら進めたい。